

## 第1回病院長・大学WGにおける主な意見(R4.8.18)

### 【分娩取扱医療機関の在り方について】

- ・県内分娩の多くを担う開業医に対し、周産期母子医療センターや病院によるバックアップ体制を確保することが重要である。
- ・「能登で分娩に問題が生じた際、金沢の三次救急に運ぶしか選択肢がない。能登に二次的な病院があればよいのではないか」との意見があった。
- ・「石川中央、南加賀は、開業医と病院の連携は概ねうまくいっている」との意見があった。
- ・現状、新生児科医が不足しており、安全安心な周産期医療を提供するには、産科医と新生児科医をセットで考える必要がある。

### 【医師が働きやすい勤務環境整備、人員体制の在り方について】

- ・各病院において女性医師が働きやすい環境整備が重要であり、進んでいる病院の取組を県内病院に共有するとよい。
- ・「女性医師からはシッター費用補助の希望が多いが、病院で補助するのは厳しい面があり、公的補助があると助かる」との意見があった。
- ・産科医療には助産師の確保も重要であり、県内で養成した助産師が県内に定着することが大切である。

### 【産科医の確保について】

- ・「能登北部においても、できる限り地元出産のニーズに応えたく、大学からの支援(医師派遣)をお願いしたい」との要望があった。
- ・「能登北部の周産期医療確保に向け、大学は医師を派遣するので、県には、寄附講座の設置により、財政支援をお願いしたい」との要望があった。